

工場出荷状態で下記の OS がプリインストールされているシリーズ Windows 7, Windows 8, Windows 8.1, Windows 10

サービスパス脆弱性対応ユーティリティ操作手順書

2018/10/31

本書では、サービスパス脆弱性対応ユーティリティを操作する手順について説明します。

【方法】

サービスパス脆弱性対応ユーティリティの操作は下記の流れで行います。

1. ユーティリティのダウンロードと展開
2. サービスパス脆弱性対応ユーティリティの実行

1. ユーティリティのダウンロードと展開

サービスパス脆弱性対応ユーティリティをインストールするためには、まずダウンロードページに掲載されているプログラムをダウンロードした後、対象機種種の Windows 上で実行し、展開先フォルダーにファイルを展開します。

掲載されているプログラム：

RSrvPath_V1.00L10.exe

(1) ダウンロードしたプログラムをダブルクリックして実行します。

「ユーザーアカウント制御」の画面が表示された場合は、「はい」をクリックします。



(2) 使用許諾契約の画面が表示されますので、内容をよくお読みいただき、「はい」をクリックしてください。

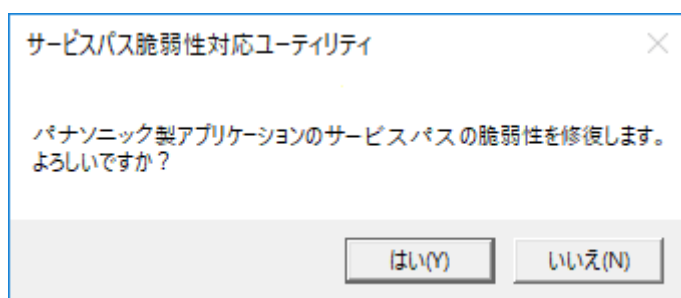
(3) 展開先フォルダーを設定する画面が表示されます。展開先フォルダーは、プログラムが自動的に作成しますので、特に変更する必要はありません。（変更する場合は、必ず、本体のハードディスク上のフォルダーを指定してください。展開先フォルダーは標準では「C:\¥util2¥RSrvPath」が設定されています。）「OK」をクリックしてください。

(4) しばらくすると展開が完了して、展開先フォルダーが開きます。

2. サービスパス脆弱性対応ユーティリティの実行

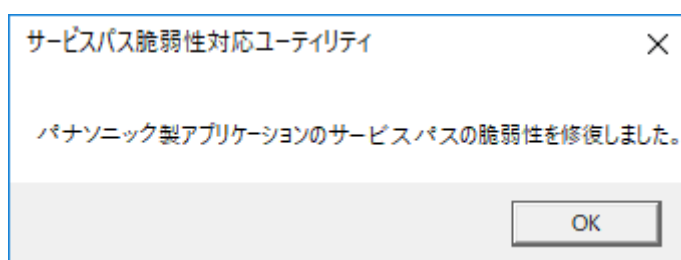
展開されたファイルの中の「RSrvPath.exe」を実行します。

(1) 確認画面が表示されるので、「はい(Y)」をクリックします。



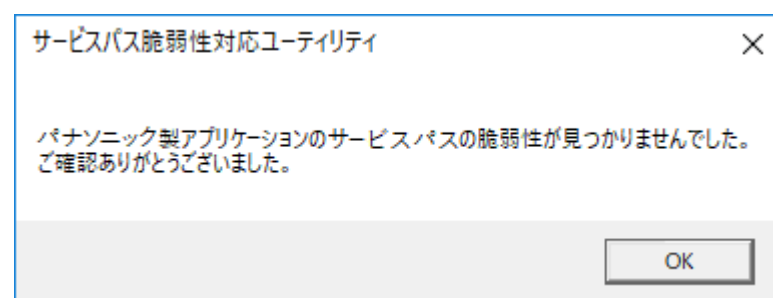
<脆弱性が存在する場合>

完了画面が表示されるので、「OK」をクリックします。



<脆弱性が存在しない場合>

完了画面が表示されるので、「OK」をクリックします。



サービスパス脆弱性対応ユーティリティの操作手順は以上で完了です。